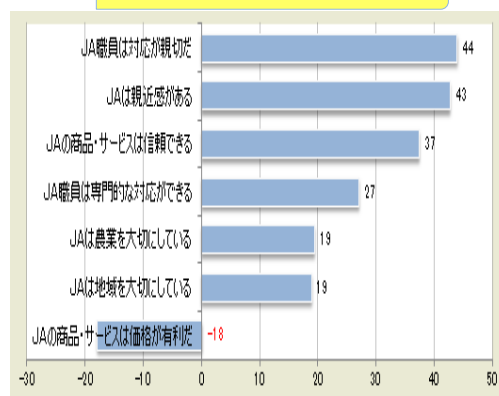


～新年(丙申)を迎えて～

平成28年は丙申、以前の丙申は、60年前の昭和31年。戦前の経済水準を超えるまでに回復して、「もはや戦後ではない」と戦後の復興が改めて明確に示された年でした。「丙」は形が明らかになってくる頃。「申」は果実が成熟して行って、固まって行く状態、つまり完熟までは達しない状態を表しています。平成27年は安保法制、TPP大筋合意、そして農協改革など今後の国の形や地域社会のあり様を規定する大きな決定がなされ、今年、それが始動し始める年、まさに丙申の年なのです。国民一人一人が、また、JA組合員・役職員一人一人が主体者として『悪しき完熟』とならないための行動が求められているのではないかと思います。

さて、右表は、機構が支援したあるJAの組合員アンケートで「JAに対するイメージ」を聞いた結果です。JAの強みである「親切」「親近感」「信頼」などが大きく評価されていますが、一方、よく言われますが「商品・サービスの価格」は評価が低い結果です。アンケートは60代以上が7割を占めており、今までの組合員との関係性の深さ＝財産の表れだと思いますが、しかし、JAは60年余、世代交代期に来ています。JAの自己改革の中で、この財産を失うことなく、評価が低いところは改革し、高いところは敢えて意識して強化することにより『善き完熟』となるようJA組合員ともに役職員一人一人が主体者として行動することが今、求められていると思います。(常務理事 浦野邦衛)

JAに対するイメージ



【地域開発部】

畜産クラスター事業 ～飼料用米利用普及協議会研究会開催

平成27年11月9日 伊那市 JA上伊那伊那支所において、飼料用米利用普及研究会を開催しました。当研究会は、「高収益型畜産体制構築事業のうち畜産クラスター実証支援事業」の一環として、南信飼料用米利用普及協議会(事務局:当機構)の主催により、飼料用米の栽培、飼料化、制度について研修いただき、より一層の飼料用米の利用・普及に向けてのご理解をいただきました。

研究会では、長野県畜産試験場から「飼料用米の乳牛への利用」「飼料用稲の品種特性と栽培」と題して、全国の事例をはじめ、畜産試験場での研究内容が報告されました。飼料用として利用する上での、加工方法(玄米、圧ぺん、粉砕)、各採乳期における飼料用米混合による発酵TMRの利用割合等の他、長野県飼料米育成品種「たちすずか」の栽培方法についても説明がありました。

また、長野県農政部園芸畜産課からは、「畜産クラスター事業について」と題して、地域ぐるみで高収益型の畜産を目指す「畜産クラスター計画」に位置付けられた担い手農家に対し、機械のリース導入や施設整備、家畜導入などの支援制度の説明がありました。

南信飼料用米利用普及協議会は26年度より、畜産クラスター事業を受けて、南信地域の畜産関係者や飼料メーカー、県、JA等が連携して協議会を設立しました。飼料用米やリンゴジュース粕、おからなどの地域資源を活用した発酵TMR飼料の製造及び供与体系を検討し、飼料コストの低減による収益力の向上を目指しています。(次長 大熊桂樹)

写真:研究会の様子



【人材銀行局】

職場
から

経験豊富・新進気鋭で意気投合！



全農の農業機械部品センターをご紹介します。長野・山梨両県に点在するJA農機具センターからの部品発注に、追われる毎日です。繁忙期は、「猫の手も借りたいくらいの忙しさ」と伺いました。集合写真で、中央に坐しておられる塚田与幸さんがリーダー的存在。奥左の宮下勝さん、奥右の松下安考さん、そして、前列左の松島真由美さん。この4名は、ベテランの方々になるそうです。続いて、前列右側、二人の新人は、小林史矢さん、清澤鈴子さんです。意気の合った最近では、新人とベテランが互いに切磋琢磨し、各JA農機具センターに、「より早く・より正確に・農機具部品を届ける」べく、日々頑張っておられます。「この仕事は、専門的な知識も多く、覚えることばかり。でも先輩に早く追いつきたい」と二人の新人は、熱い思いを語ってくれました。と言いながらも、ベテランの方々のエネルギッシュな電話の対応は、若者以上かもしれません。ある意味において、すごいパワーを感じる活気に満ち溢れた職場です。

職員
紹介

頑張ってます。派遣職員！



長田勝行さん



長田さんは、JA上伊那のOBです。
平成26年4月から開発機構職員として、初めは小野支所、現在も、東箕輪支所にて金融関係の業務に就労されております。現役時代に培った豊かな知恵と経験をいかんなく発揮されております。
「インターネットで旅行関係の情報を集め、好きな旅行ツアーに参加すること。これからの人生“自由と健康のため”広い視野で、物事に向き合っていきたい」と、趣味と抱負について、楽しそうに語っていただきました。

～編集後記～

年が明け、まだ来ぬ春が待ち遠しく感じられる今日この頃です。
昨年におきましては、日常的にご指導・ご協力をいただきありがとうございました。
新春早々ではございますが、本年も引き続きまして、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。
年度末を迎え当機構も、日々の事業推進の傍ら、長期構想前期中期（3カ年）計画の総括に加えて、長期構想後期中期（3カ年）計画の樹立がこの時期としての特有の課題になります。
皆様のご意見、ご要望をいただけたら幸いです。（Y）

<発行所>

一般社団法人 長野県農協地域開発機構

長野市大字南長野北石堂 1177 番地 3 JA 長野県ビル 11 階

TEL 026 (236) 3500 (代表) / FAX 026 (236) 3505